



みえ災害ボランティア支援センター

令和6年 能登半島地震・奥能登豪雨 被災地支援 活動報告書



ごあいさつ

みえ災害ボランティア支援センター（以下、「MVSC」）では、過去幾度も災害ボランティアバスを企画してきました。しかし、今回の能登半島地震・奥能登豪雨ではボランティア活動の土台を支える交通や宿泊にも大きな被害がでたことや、被災者の二次避難が行われた結果、支援ニーズが分散したこと、激甚な地震であったため専門性が求められる支援が多かったことなど複合的な要因から異なる支援の形を模索することとなりました。

先遣隊活動を通じて見えてきたのは、脆弱なインフラ状況でも自立・自活し、専門性を活かした支援を届ける小規模な支援団体が、できるだけ継続的に地域の変化に寄り添いながら柔軟な支援を続けることの重要性です。そこでまず、MVSCでは被災地に支援に向かう団体の活動を後押しするための情報提供や助成金事業を行いました。また、現地のインフラが概ね復旧し、様々な団体でも個人ボランティアを受け入れる仕組みや拠点を立ち上げてからは、個人ボランティアの交通費等の助成をすることで一人でも多くの三重県民が被災地に向かいやすくなるよう取り組みました。

このような柔軟な活動は、MVSCがNPOなど民間団体と県社協、県の三者連携による取り組みを2000年以降、息長く続けてきたからこそ実現しました。特に、各幹事団体においては、MVSC運営に関わる職員を支えるにあたっての負担も大きかったと思います。みなさんの支えに感謝します。

また、今回の活動でも県内外の個人、団体から多くのご支援をいただき、三重から多くの心あるボランティアを被災地に繋ぐことができました。本当にありがとうございます。

さらに、自ら被災している方々が、または発災直後から被災地に入り長期間活動している団体の方々が、三重から支援したいという気持ちを受け入れて頂いたからこそ、私たちは能登で活動することができました。そのような仲間に出会えたことに心から感謝しています。

そしてなにより、三重から能登に多くの団体・個人の方が駆けつけてくださいました。そのような仲間が三重県にたくさんいることを誇りに思うとともにとても心強く思っています。

能登の復興はまだ始まったばかりです。今回のMVSCは一定の役割を果たしたと考え2025年3月末で閉鎖予定ですが、能登の復興に寄り添う三重からの支援は今後も継続し、できることに取り組んでいきたいと考えています。

令和6年 能登半島地震・奥能登豪雨被災地支援
みえ災害ボランティア支援センター長
山本康史



みえ災害ボランティア支援センター

大規模災害時に災害ボランティア活動が円滑に行われるためには、被災者のニーズを適切に把握し支援者に繋ぐ中間支援活動を、官民が連携して取り組むことが大切です。そのような中間支援活動を三重県域で取り組むのがみえ災害ボランティア支援センター(MVSC)です。

2000年の東海豪雨以降、2004年三重県内に大きな被害をもたらした台風21号災害や2011年東日本大震災など県内外での大規模災害が発生した際に設置しています。今回の能登半島地震でも三重県から一人でも多くの災害ボランティアが能登に駆けつけられるよう、被災地の情報収集や受入組織との関係構築、三重から駆けつける団体や個人への支援活動を行いました。

活動の記録

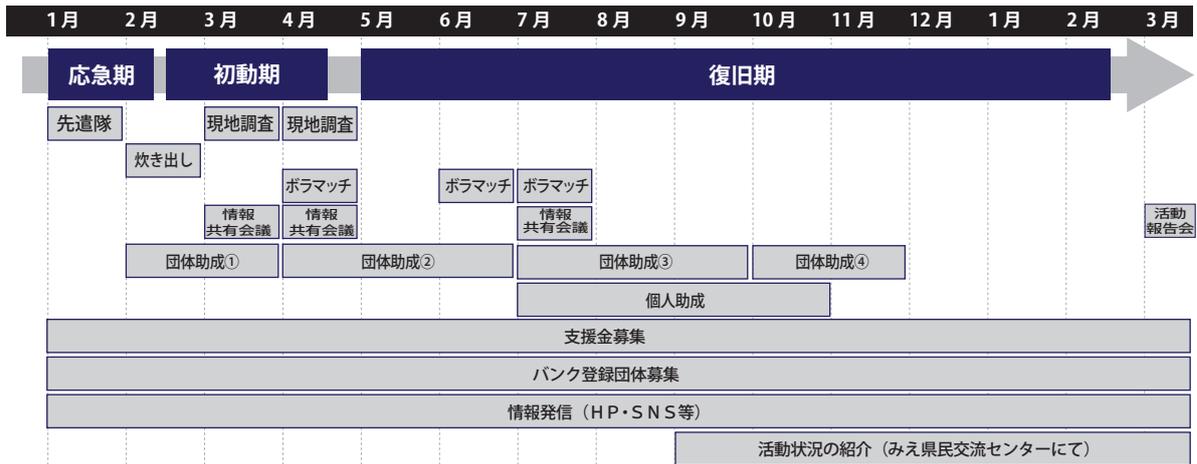


◆ 設置の決定までの流れ

みえ災害ボランティア支援センターは、三重県内に震度6弱以上の地震が発生した場合等のほか、県外で大規模災害が発生し、被災地でボランティアによる支援が必要な場合に設置します。

令和6年能登半島地震では、ボランティアによる長期的な支援が必要となることが想定されたことから、令和6年1月10日にMVSCを設置し、三重県の対口支援先であり、三重県社会福祉協議会の職員派遣先でもあった輪島市を中心に支援を行うことにしました。

◆ 支援の経過



◆ 活動カレンダー

| 日付 | 内容 | 主な活動 |
|-------|------------|--|
| 1月1日 | (発災) | (令和6年能登半島地震 発生) |
| 1月3日 | 先遣隊 | 第1次先遣隊現地入り(～1/8) |
| 1月9日 | 幹事会 | みえ災害ボランティア支援センター幹事会を開催 みえ災害ボランティア支援センターを翌日10日に設置することを決定 |
| 1月10日 | センター設置 | みえ災害ボランティア支援センター設置、センター長に山本康史氏が就任 |
| 1月12日 | 支援金 バンク | 令和6年能登半島地震等災害ボランティア活動支援金 募集開始 みえ災害ボランティア団体バンク 募集開始 |
| 1月21日 | 先遣隊 | 第2次先遣隊の派遣(～1/26) |
| 2月4日 | 現地活動 | 輪島市にて炊き出し実施(～2/7) |
| 2月5日 | 助成 | 【団体向け】令和6年能登半島地震災害ボランティア活動費等助成事業(第1次募集)開始 |
| 3月5日 | 現地調査 | 現地調査(～3/7) |
| 3月18日 | 情報共有 | 「令和6年能登半島地震 被災地の今-現場報告・私たちにできること-」開催 |
| 4月1日 | 助成 | 【団体向け】令和6年能登半島地震災害ボランティア活動費等助成事業(第2次募集)開始 |
| 4月22日 | 情報共有 | 「能登支援情報共有会議 in 三重」開催 |
| 4月23日 | 現地活動 | 第1回ボラマッチ(～4/26) |
| 4月26日 | 現地調査 | 現地調査 |
| 6月19日 | 現地活動 | 第2回ボラマッチ(～6/21) |
| 6月24日 | 助成 | 【団体向け】令和6年能登半島地震災害ボランティア活動費等助成事業(第3次募集)開始 【個人向け】令和6年能登半島地震災害ボランティア活動交通費等助成事業 開始 |
| 7月5日 | 情報共有 | 「ボランティアに行こう能登へ-令和6年能登半島地震 活動報告・意見交換会-」開催 |
| 7月26日 | 現地活動 | 第3回ボラマッチ(～7/28) |
| 9月21日 | (発災) | (令和6年奥能登豪雨 発生) |
| 9月27日 | 助成 | 【団体向け】令和6年能登半島地震災害ボランティア活動費等助成事業(第4次募集)開始 |
| 3月8日 | 情報共有 | 令和6年能登半島地震活動報告会「能登を想い、何をしたか」開催 |
| 3月31日 | センター閉鎖 | みえ災害ボランティア支援センター 閉鎖 |

幹事会開催日

令和6年1月9日、1月19日、2月2日、2月16日、3月8日、3月27日、4月12日、5月14日、6月4日、7月2日、8月6日、9月3日、9月24日、10月1日、11月5日、12月3日、令和7年1月14日、2月4日、3月4日(計19日)



先遣隊、現地調査

地震発生の当日から情報共有をし、翌日には先遣隊が現地入りして三重からできる支援を模索しました。第2次先遣隊、現地調査を行い、長期的な支援体制づくりを行いました。

報告：特定非営利活動法人みえ防災市民会議

第1次先遣隊（MVSC 設置前：みえ防災市民会議による先行事業）

令和6年1月1日16:10の能登半島地震発生を受けて同日16:29に幹事団体メーリングリストにて情報共有の第1報を発信し、翌1月2日にみえ防災市民会議が先遣隊として1月3日～8日まで現地入りしました。石川県庁で活動を開始していた認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）の活動に参加しつつ、三重からできる支援について情報収集と現地調査を行いました。

特に今回の災害では活動拠点の確保が困難でしたが、この先遣活動を通じて石川バリアフリーツアースターの持つ施設を活用できることになりました。

◆メンバーのつぶやき

現地に近づくにつれて、「この被害は未来の三重県の姿だ」という気持ちが強くわき上がり、他人事と思えなくなりました。



第2次先遣隊

1月21日～26日にみえ防災市民会議が第2次先遣隊活動を行いました。

三重県が輪島市に、三重県社協が輪島市社協に支援に入っているため、MVSCも輪島市を主要支援先と定め、被災者の状況やボランティア受入、道路復旧状況の把握、活動している他団体と情報交換、拠点候補施設の現地確認を行うと共に、井村屋様、コープみえ様から提供頂いた支援物資を、行政や社協、NPO等被災地で支援活動に取り組む方々に届けました。

この回の現地調査では被災者の食と栄養環境が十分に整っていない現状を把握し、また交通事情から少人数の自己完結型炊き出しチームのニーズが高いことが分かり、その後の直轄の事業実施に繋がりました。

◆メンバーのつぶやき

積雪や路面凍結に備え予備燃料や脱出用の砂を携行、自己完結できるよう食料・防寒・携帯トイレなどの準備を念入りに行い、最新の道路状況など現地ですまめに情報収集しながら活動しました。また、被災者に不安を与えないようビブスを着用して調査に取り組みました。調査では被災者の生活状況や衛生状況について特に注意して確認しました。



現地調査

現地でボランティアの受け入れをしているNPOとの打合せや、継続的な支援に不可欠な後方支援メンバーの現場への理解を深めるため、3月5日～7日にみえ防災市民会議とみえNPOネットワークセンター、三重県で現地に行きました。

この訪問を契機にRQ能登など現地NPOとのつながりを作ることができました。現地のボランティア受け入れ先とのつながりができたことで、三重から支援活動を希望するNPOと現地NPOをつなぐ「ボラマッチ」事業を立ち上げることができました。また、毎週行われていた輪島市での状況・情報共有のための会議（情報共有会議）に参加することで、被災状況や被災地のニーズを把握することができ、長期的支援体制及び具体的な支援内容を検討することができました。

◆メンバーのつぶやき

現地に入り、活動をされている人に出会い、現場の声を聴き、被災地の状況を目の当たりにしました。「三重から何ができるのか」を突きつけられました。帰路にて「状況を早く伝えよう。できることを仲間と見出し輪島に行こう」と冷静に受け止め、現地NPOとの関係を強め、現地の声をしっかり聴き、求められていることに少しでも応えるために仲間と模索する日々が始まりました。





炊き出し支援

被災した輪島市の皆様との縁がつながり、炊き出しやイベントの開催を現地のボランティアと連携・交流して実施することができました。
報告：三重県ボランティア連絡協議会

能登半島地震で被災した輪島市の皆様との縁がつながりました

MVSCとしての活動は、被災1ヶ月後の2月4日～7日に輪島市の福祉避難所ウミュードウ・ソラへの炊き出しでした。

被災の爪痕は大きく、まず宿がありませんでした。石川バリアフリーツアーセンターから紹介された社宅の空き部屋を宿に、9人が2泊3日の炊き出しを実施することになりました。中能登町から、陥没とひび割れだらけの道路を2時間かけてようやく到着しました。

活動は約30人の避難者の皆さまへの食事の提供です。しかし、この施設のスタッフは全員被災し避難したとのことでした。代わりに訪問看護師のNPOのスタッフが、施設に泊まり込んで交代でお世話をされており、福祉避難所の「想定外」以上の現実を目の当たりにしました。

早速調理にかかりますが、室内にはベッドがぎっしり置かれ、スペースがありませんでした。持参したテントを玄関前に立ててそこを調理場としました。この炊き出しは、避難された皆さんとスタッフの三食を確保するための食事です。高齢者が中心と聞いたので、それに配慮したメニューを準備してきました。出来上がった食事は私たちが施設内まで運び入れ、スタッフの手でそれぞれのベッドまで運ばれます。まとめて食事を摂るスペースはなかったのです。また、断水が続いているので、水は施設の前に置かれた大きなタンクからポリタンクに移して使いました。

3日間の活動を終え、道具やテントを車に積み込んでいた私たちに素敵なプレゼントがありました。「美味しかったありがとう。私たちが頑張ります」と書かれた紙が、ガラス窓の内側に張り出されました。皆様の感謝の声に元気付けられ、継続的な支援を決意しました。

以降、三重県ボランティア連絡協議会は、独自に以下の活動を実施しました。5月には、今後の具体的な支援を相談するため、役員が輪島市ボランティア連絡協議会の会長を訪問し、輪島市のボランティアの皆さんと縁がつながりました。

8月1日には「能登半島地震1.1ともしびの集い」として、輪島市の社会福祉法人弘和会が運営する、多機能ライフサポート一互一笑（いちごいちえ）という福祉施設を会場に、模擬店と衣類等の無償譲渡会を開催しました。イベント開催前に、持参したろうそくに灯を点し、全員で黙祷し、その後模擬店を開きました。

また、10月26日にも訪問し「手つなごう」というイベントを開催しました。いずれも、主催は三重県ボランティア連絡協議会、共催が社会福祉法人弘和会、輪島市ボランティア連絡協議会として、輪島市の皆さんと一緒に開催できたことは大きな意味があると思っています。

ろうそく等の準備から、焼きそば、炊き込みご飯、ポップコーンや綿あめ、かき氷等の模擬店の運営まで、互いのボランティアが入り混じりながら活動しました。これ以上の交流はありません。しかし、活動しながら聞いてみると、輪島市のボランティアの中には、地震で被災されながらもこの活動に参加されている方もおられ、このボランティア精神に多くを学びました。さらに、このイベントには会場周辺の皆様や、近くの仮設住宅にお住まいの方にも参加いただきました。

また、10月27日には、輪島市ボランティア連絡協議会の会長が、輪島市門前町が活動の拠点であることから門前町を訪問し、門前町のボランティアの皆さんと交流会を持ちました。その後、門前町の復興に尽力する若いスタッフの情熱あふれるお話を聞きました。



2月6日夕食準備



【模擬店】焼きそば



【模擬店】輪なげに集まった子どもたち



現地 NPO と三重の NPO をつなぐボラマッチ

3月に輪島に出向いた際につながりを持つことができた現地 NPO と連絡調整し、そのコーディネートのもと三重の NPO や個人が現地での支援活動を行いました。

報告：特定非営利活動法人みえ NPO ネットワークセンター

第1回 2024年4月23日(火)～4月26日(金)

活動場所 輪島市門前町刃地地区 RQ能登活動地

参加団体 三重さきもり倶楽部 認定 NPO 法人ときわ会藍ちゃんの家
特定非営利活動法人みえ NPO ネットワークセンター

(活動内容)

- 「危険」の貼紙がある家屋の庭に落ちた屋根瓦、剥がれ落ちた壁の撤去作業
- 雨戸やガラス、庭にある植木鉢が割れて飛び散った破片の撤去作業
- 家屋2階から家財道具、ベッド、タンス、衣装ケースなどを運び出し、運搬
- 被災家財や冷蔵庫、洗濯機、壊れた棚などの搬出・集積場へ運搬
- 炊き出し 100食
- サッシ戸と玄関戸ガラス損傷のためブルーシート張り
- 斜めに傾いた納屋内の荷物や道具が散在した荷物や道具を仕分け作業 等

現地に拠点を開設した NPO のコーディネートのもと、被災された方のニーズに少しは応えることができたと思っています。家屋の片づけ、災害廃棄物、被災家財の撤去作業はとても大変な作業でした。しかし、被災された方と話をする中で、大変な作業であっても、被災された方の気持ちや状況を考え、ポジティブに思いをもって作業をすることの大切さを痛感しました。被災された方の思いや気持ちに「寄り添う」と言葉では理解しているつもりでも、現場では作業に追われてしまい、「十分に受けとめ、ていねいに話を聞くことができたのか、作業をすることができたのか」と自問する場面が多々ありました。



◆参加団体の声◆

◇自分の出来る支援を精一杯し、現地での様子や自分たちが出来ることを伝えられればと思い参加しました。ボランティアとして被災地支援に赴くのは初めて。輪島での災害支援活動を通して様々な学びと気づきを得ました。

◇三重県で震災が起きた際に、NPO として地域に対して何が出来るのか、平時に何をしていたらいけないのかを考えるきっかけにもなりました。平時から中間支援組織や県内の NPO 等との連携を取り、被災時に各団体がどのような役割を担うのか等について考えていくことがいかに大切に気づきました。

第2回 2024年6月19日(水)～21日(金)

活動場所 輪島市門前町刃地地区 RQ能登活動地

参加団体 特定非営利活動法人みえ NPO ネットワークセンター

(活動内容)

- 回収済み家具を災害廃棄物集積所へ運搬
- 回収済み衣類等燃えるごみの仕分け作業
- かまど、家具、ガラス戸・格子戸の撤去、搬出
- 濡れた畳の搬出と廃棄
- 家屋の1階、2階の窓、サッシ滅失箇所へのビニールシート張り
- 蔵の屋根瓦が崩れていたためビニールシート張り
- 1階2階のサッシ戸と玄関戸のサッシ戸がないためにビニールシート張り
- 洋服ダンス、和ダンス、掘りごたつ、引き戸等を家屋から搬出、運搬、廃棄 等



暑さが増し、搬出作業がさらに厳しくなり、夏場のボランティア作業は健康管理が重要であることを実感しました。県外に避難している方の家屋のサッシ戸、エアコン、塀の銅板などが持ち去られていて、近所の住民からの連絡により緊急対応で1階と2階にビニールシートを張りました。被災地では窃盗が白昼堂々で行われているという話も聞いて驚きました。RQ能登は門前地区で半年間の活動をしており、地域から信頼されていました。ビブスを着ていると声をかけられたり、軽トラで現場を離れるときには手を合わせて感謝してもらえるほど頼りにされていました。3日間で行えることは微々たるものですが、被災された方の気持ちや作業が「少しでも楽になれば」という気持ちで作業をしてきました。特に家屋片付けや修理作業は重労働であるため、高齢の方に少しでも喜ばれているのであればと思っています。

◆参加団体の声◆

◇被災された方に寄り添うとはどういうことか、を考えさせられました。また、基幹となる支援組織、特にリーダーの考え方や差配が活動の要になると感じました。ボランティアの安全も含め、NPOの役割は重要であり、行政や協力団体を動かす原動力になると気づかされました。外から駆けつけるボランティアは、現地にいるときは自己完結で他者への配慮、迷惑をかけないことが前提です。普段の自組織のメンバーとは仕事観や習慣が違うので、他のメンバーとの違いを受け入れて、協同作業をすすめていくことの重要さにも気づかされました。

第3回 2024年7月26日(金)～28日(日)

活動場所 輪島市門前地区 道下第二仮設住宅集会所 / 道下第一仮設住宅集会所 ありんこの家

参加団体 非営利市民活動団体だいじこファミリー 特定非営利活動法人みえ NPO ネットワークセンター

(活動内容)

■道下第一仮設住宅集会所と道下第二仮設住宅集会所でのサロン活動
多羅葉の葉っぱに手紙を書こう！／使用済み切手を使ったオリジナル菜作り体験／オリジナルスタンドグラスカード作り体験／オリジナル写真ポストカード配布／たて琴楽器ライヤーのミニ演奏会&唱歌「ふるさと」をみんなで歌おう／レターセット、ポストカード、便せん、封筒、文房具、古本、日用品、ぬいぐるみ、尾鷲ヒノキのポンポン、お菓子の配布 三重のお菓子とお抹茶をいただきます！
／みず風船コーナー 等



■災害NPOありんこ「ありんこの家」での多羅葉の葉っぱに手紙を書こう！

■小学校での寄付衣服の整理作業

■現地で活動をしているNPOや被災された方のヒアリング

2カ所の仮設住宅集会所でのサロン活動を行いました。災害NPOありんこや門前支所、集会所の方がチラシを作成し案内掲示や住民の方に配布していただき、多くの方に参加いただきました。地震が起きた時、避難所にいらした時、食のこと、寒さのことなどいろいろな話をしながら、住民の方の思いや今の暮らしに少し触れることができました。「こういう時間がもっとほしい」「また来てください」と話された時、とても嬉しく「できることをしよう」という気持ちがさらに強くなりました。

現地の調整を担ってくださった災害NPOありんことの連携があってこそこのプログラムは実施できました。非営利市民活動団体だいじこファミリーは温かく愛のあるプログラムを笑顔いっぱいでも実施していただきました。フェーズが変わり、支援の内容も少しずつ変わってきたようにも思います。三重から何ができるのかをより考えなければいけないと感じています。



◆参加団体の声◆

◇会場確認のために第二仮設住宅を歩いていた際に、散歩している女性お二人と少し立ち話をしました。「遠いところ暑い中を来てくれてありがとう」と言って頂き、うちわで扇いで下さるなど気遣って頂き、大変な思いをしていらっしゃるのにそのやさしさに胸を打たれました。来て良かったと思えた瞬間でした。

◇「多羅葉の葉っぱ de お手紙体験」には来ていただいたほとんどの方に体験していただけてとても嬉しかったです。だいじこポストに投函して下さいました。

◇たて琴ライヤーのミニ演奏会では皆さんが楽しんでいて良かったです。みんなで「ふるさと」を一緒に歌いました。皆さんの表情が穏やかで、ほんのひと時もかもしれませんが心安らく時間を共有できたならとても嬉しく思います。

◇「わたし家がないの」と話された女性の方にどう返事すればいいのか悩みました。多羅葉の葉っぱに「お父さん元気ですか」と文字を刻まれた女性の方が涙ぐまれ、どれほどのつらい悲しい経験をされ、その想いを心の奥底にしまわれているのかと思うと胸が詰まりました。

◇集会所にお越しいただいた方から帰り際に「また来てな」と声を掛けて頂いた私たちはとても嬉しくて再訪したいと強く思いました。





情報共有会議

被災地支援を行った三重の団体や個人の方をお迎えし、被災地の状況や活動報告を聴きあう情報共有と意見交換を行いました。情報を共有し発信することで、「わたしたちにできること」を見出し、現地に向くボランティアを増やしたい。3月、4月、7月に実施しました。

報告：特定非営利活動法人みえ NPO ネットワークセンター、特定非営利活動法人みえ防災市民会議

第1回 「令和6年能登半島地震被災地の今—活動報告・わたしたちにできること—」 参加者：95名
日時：2024年3月18日（月）18:00～20:30 場所：みえ県民交流センター（オンライン併用）

発災から2カ月が過ぎ、三重県内の被災地支援活動を行っている団体から現地の状況や活動内容をお聞きする情報共有と意見交換を行いました。

第1部では伊勢志摩まちづくり団体 楽笑（以下、「楽笑」）の岩城ひろこさんから、「七尾市から能登町の避難所に1日かけて炊き出しに行ったこと、毎日の炊き出しに人手が足りないこと」をお聞きしました。NPO 法人 HOME の花井幸介さんからは、「支援物資を集めて内灘町に運び、『0円スーパー』と名づけ、被災された方が好きなものを持っていく催しをしたこと、食事の栄養バランスを懸念していること」が話されました。DRT-JAPAN 三重の山本俊太さんは、技術系ボランティアとして、「のと里山空港に取り残された人の救出、道路障害の撤去や通行可能な道路への誘導などの作業をされたこと、人命捜索や孤立集落への道路啓開、倒壊した家屋の中からの貴重品や車庫からの車の取り出しを行ったこと」を報告されました。



（社福）三重県社会福祉協議会（以下、「県社協」）からは、「災害時の福祉専門職チームのコーディネートとブロック派遣として輪島市社会福祉協議会の支援、地域訪問し各世帯の困りごとを聞く活動」について、三重県職員からは「輪島市の対口支援を行い、避難所の運営支援のための調整や倒壊した建物の処理や応急仮設住宅の建設など幅広い支援の必要性」について話されました。

第2部は、被災地での支援や、団体の専門性を活かした支援をしたい方、三重県に避難された方の支援を考えている方などに参加いただき、被災地の状況や支援活動の報告を聞いて、「自分に何ができるのか」「支援をする際に必要なことや重要なこと」について意見を交わしました。「現地の人たちとのつながりを大切に支援を続けたい」「無理のない範囲で支援に行きたい」「ボランティアバスは出ないのか」、高校生からは「自分たちに何ができるかを考えたい」と発言がありました。



「被災地の復興には時間がかかる。被災地のことが忘れ去られていかないように、自分の事としてとらえ、つながり、一緒に頑張りつづける関係を作り、活動をしていきたい。」と共有し、会を閉じました。

第2回 「能登支援情報共有会議 in 三重」 参加者：32名
日時：2024年4月22日（月）18:00～20:30 場所：みえ県民交流センター（オンライン併用）

第1回に出席いただいた楽笑、DRT-JAPAN 三重、県社協と、チーム四日市、非営利市民活動団体だいじこファミリー（以下、「だいじこファミリー」）、認定 NPO 法人ときわ会藍ちゃんの家（以下、「藍ちゃんの家」）、三重さきもり倶楽部の7団体から活動報告、今後の活動予定についてお話をいただきました。

楽笑からは「炊き出し支援に区切りをつけ、4月以降は支援物資を届ける活動を行っていること」、DRT-JAPAN

三重から「のと里山空港への誘導、孤立集落への道路啓開、家屋からの貴重品の取り出しなどを行っていること」、チーム四日市から「四日市大学と連携し、門前で炊き出し支援を行ったこと」、県社協から「三重県社協、市町社協職員が輪島市社協の運営サポートをしていること」をお聞きしました。また、だいじこファミリーは「三重県民から被災者に手紙を届ける活動を行う予定」、藍ちゃんの家と三重さきもり倶楽部は「ボラマッチプロジェクトでRQ能登の活動に参加予定」、と話されました。また、現地の活動拠点や宿泊拠点（のと復興ラボ・RQ能登など）、ボランティア受け入れをしているカウンターパートを紹介し、ボランティアに行きやすい状況になり始めていることを共有しました。



また、「支援のスピードが遅い」「ニーズを把握しにくいいため、地域を歩いて情報収集をしている」「仮設住宅への引っ越し作業や二次避難された方の支援が必要になる」「ボランティアの継続的活動が求められる。そのための支援金や仕組みづくりが必要」と話されました。

最後に、「まだまだ支援が必要である。受入体制も整ってきた。支援に行く人が増えるよう呼びかけて行こう。」と次に進もうという思いを共有する会でした。

第3回「ボランティアに行こう 能登へ 令和6年能登半島地震活動報告・意見交換会」 参加者：63名 日時：2024年7月5日（金）18:00～20:00 場所：みえ県民交流センター（オンライン併用）

発災から6ヶ月が経過しましたが、まだまだ支援が必要なため、「夏休みから秋にかけてボランティアとして活動してほしい」と現地でボランティアを受け入れている団体とボランティア活動をした団体による報告会を行いました。

輪島市で支援調整窓口を担っている（一社）ピースボート災害支援センター（以下、「PBV」）の関根正孝さん、ボランティアを受け入れているRQ能登の醍醐陸史さん、石川県災害対策ボランティア本部の森千香子さんをゲストに迎え、現地の状況を伝えていただきました。PBVの関根正孝さんは、ボランティアを必要としている被災地の人とボランティアをしたい人を結びつけることの必要性和、ニーズを把握して支援を調整し届ける窓口の重要性を話されました。RQ能登の醍醐陸史さんは、「輪島の門前地区で地域に密着した活動をしている。1回の支援で終わらせるのではなく、支援者が代わったとしても支援を継続することを大切にしている。」と話されました。



また、三重県から現地に駆けつけた学校法人愛農学園農業高等学校の生徒、藍ちゃんの家、三重さきもり倶楽部が活動報告をしました。高校生は「被災地に行くことができてよかった。被災された方から多くを学んだ」と、NPOの方々には「現地の大変さを目の当たりにした。大変な作業だった。時間もかかるし、人手はもっと必要です。」と話しました。その後、被災地に行くことを予定している方などからいくつもの質問がありました。「現地とつながりができると行きたいと思うようになる」「行かれた方の話を聞くと私にもできると思える」といった意見が交わされました。「みんなで能登に行こう。」思いがひとつになる情報共有会でした。





現地社協への応援

三重県内の社会福祉協議会（以下、「社協」）の職員派遣は、令和6年1月18日より開始し、令和6年12月末まで、のべ50クールを輪島市および志賀町に派遣してきました。1クールあたり2～3名のチームを三重県社協と県内市町社協の職員で構成し、派遣人数としてはのべ138人を能登地域に継続的に派遣してきました。

報告：社会福祉法人三重県社会福祉協議会

三重県社協、市町社協の能登半島地震への派遣

県内の全市町の社協職員が支援活動に参加することとなり、今後に向けて貴重な機会となりました。

今回の派遣では、輪島市社協の業務の運営支援や、災害たすけあいセンター（ボランティアセンター）の開設・運営の支援を主な目的として活動しました。具体的には、地域訪問による被災者の生活状況の聞き取りやマッピング、災害たすけあいセンターのニーズ受付、データ入力・整理、現地調査、ボランティア受付、マッチング、送迎等を行いました。

輪島市災害たすけあいセンターでは、社協だけでは十分に活動ができない状況でしたが、輪島市社協の職員をはじめ、石川県内外の社協職員、企業・団体、NPO・ボランティア等の様々な関係機関と協働して運営に取り組むことで、被災者のニーズに対応できる体制を整えていくこととなりました。このことは、三重県内の社協職員にとっても学びを得る経験となったのではないかと認識しています。



三重県からの派遣職員の課題

今回の派遣では、東海北陸ブロックからの社協職員の派遣をはじめとして全国の多数の社協・企業・団体等から応援人員の派遣が行われています。応援の人員は数日から1週間程度の期間で入れ替わっていくため、応援で派遣されている者同士の引継ぎや情報共有とともに役割の分担や整理が、常に流動的な状況においては重要となります。

また、今回の派遣ではICTを活用したボランティアのニーズの受付等を行ったため、ボランティアセンターの運営が効率化されました。一方で、ICTのスキルには職員間で能力に差があることから、能力に不足がある場合は緊急時での対応は困難となります。ICTを活用したボランティアセンターの運営や被災組織への支援は今後さらに主流となることを見込まれることから職員のICTスキルの向上が必要です。

今後に向けて

災害により、地域では生活上の課題を抱える方が増える状況の中で、必要な支援を届けるためには、平常時から地域での連携協働のネットワーク構築が重要となります。

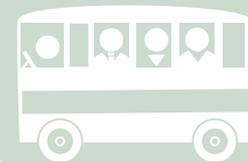
その一方で、災害時は地域の支援機関も被災し、その機能を十分に発揮できない可能性もあります。そのため、被災地における平常時からの地域の力だけでなく、被災地外から被災地支援に駆けつける福祉関係職員（社協、社会福祉法人等職員等）やNPO等の支援が必要です。さらに、こうした多岐にわたる関係者の協働を推進するためにも、それらをコーディネーションする能力・役割が重要となります。

私たちは、今回の能登半島地震被災地への派遣を通じて得た気づき・学びを、今後の災害対応へ活かし取組を強化していく予定です。

今回の派遣活動は、支援活動を支えてくださっているすべての方々の協力なしには成し得ませんでした。皆様のご理解とご支援に心より感謝申し上げます。また、最後に現在も能登半島で支援活動を継続しているメンバーに深い敬意を表したいと思います。



団体助成



【団体向け】令和6年能登半島地震災害ボランティア活動費等助成事業

三重県内の団体等が能登半島地震・奥能登豪雨の被災者を支援するため、災害ボランティア活動を行う場合の活動費等を助成しました。

《対象団体》 三重県内に拠点を置く団体等（NPO、ボランティア団体等）

《助成金額》 1団体あたり上限10万円

《助成要件》 被災地や広域避難場所の県、市町村、現地災害ボランティアセンター、支援団体等と連携した、実働2日以上支援活動

（実績）第1次：令和6年1月1日～令和6年3月31日（6団体・571,151円）

第2次：令和6年1月1日～令和6年6月30日（4団体・370,967円）

第3次：令和6年1月1日～令和6年9月30日（5団体・471,513円）

第4次：令和6年1月1日～令和6年11月30日（6団体・489,882円）

※振込手数料 12,210円 合計 1,915,723円

■伊賀市災害ボランティアセンター

活動内容：愛農学園高校の高校生と輪島市三井地区公民館（避難所）
における炊き出し及びイベント開催

高校生が主体となって、自ら育てた野菜や鶏を使ったクリームシチューなどの炊き出しを行った。あらかじめ地区長と協議を行った上、被災者に案内を配布していたので、沢山の住民が集まり、子どもたちを対象にした「手裏剣投げ体験ブース」も盛況であった。地元の新聞にも取材記事が掲載され、以降、伊賀から多数のボランティアを繋ぐ活動に繋がっていった。参加した高校生には地元でボランティアのマッチングを行うNPOのレクチャーも頂き、彼らの学びの場としても大変有意義であった。



■伊勢志摩まちづくり団体 楽笑【三重支援チーム楽笑】

活動内容：奥能登地域でベースを起点にコミュニティ支援・炊き出し活動等を継続支援中

楽笑は、能登半島地震や豪雨災害の被災地で、地域住民と協働し幅広い支援活動を展開。草刈り、炊き出し、家財運び出し、支援物資の配布、子どもの居場所づくり、学習支援、カウンセリングなど、住民の声を基に活動を実施。8月から能登町小木に拠点を構え、子どもの居場所やボランティア学習塾を提供。毎月の交流会では住民同士の絆を深め、孤立していた人々が新たなつながりを持つ場を創出。草刈りや炊き出しでは「心が通う」関係性を意識し、地域の人々とともに活動。年末年始には「竹あかり」を地域住民と制作し、笑顔あふれる場を作り出した。活動を通じて、個々の得意分野を活かし、住民が主体的に動ける仕組みづくりや地域活性化を目指すとともに、心のケアを重視した支援を行った。どの活動も「心が動く」一歩を目指し、地域の今と未来を支える基盤を築いている。



■社会貢献団体オートノベ

活動内容：珠洲市内において炊き出し準備、石塀の撤去・瓦礫片付け、家財・家具の運搬と搬出

今回、発災後初めて能登へ行かせていただいた。発災直後から支援活動を行っていた知人から現地の話を聞いてはいたが、被災した惨状を実際に目の前にすると、なんとも言えず胸に迫るものがあった。私自身これまで、地震や水害の被災地へ復興支援活動を行ってきたが、今回は特にボランティアの人手不足と、様々な要因があるとはいえ作業の進捗の遅れを痛切に感じた。また、現地の方々と接する中で、それぞれ言うに言われぬ体験や思いもあったと思うが、互いに励まし合い喜びを見つけて助け合っている姿に、かえってこちらが元氣と勇気をいただいた。被災全体からすると本当にごくわずかな活動しかできなかったが、少しずつでも活動する事で前に進んでいく事もあると思うので、これからも活動を続けていきたい。



このほかの団体の方々の活動報告はこちらから



個人助成

【個人向け】令和6年能登半島地震災害ボランティア活動交通費等助成事業

三重県内在住の個人による能登半島地震・奥能登豪雨災害ボランティア活動にかかる交通費等の一部を助成しました。

《助成対象》三重県内に在住または在勤、在学の個人

《助成金額》1回の活動にかかる交通費等経費として一律8千円、1人につき3回まで

《助成要件》被災地の県、市町村、現地災害ボランティアセンター、支援団体等と連携した、実働1日以上
の支援活動

《対象期間》令和6年7月1日～令和6年10月31日

(実績) 70人・97回分 776,000円 ※振込手数料 45,760円 合計 821,760円

■ M.Sさん

活動日：7月14日 活動内容：輪島市での炊き出し

地元の有志による炊き出しボランティア。避難者は20名以下と、発災当初の100名を超えたときから考えれば少なくなってきていたが、避難されているかたは7ヶ月経っても温かい食事やゆっくり楽しめていないかもしれないので、出来立ての食事を楽しんでいただけたのではないかなと思う。

久しぶりにピザを召し上がったという方から、涙ながらに感謝の言葉を伝えられたときは、こちらも逆に元気や生きることなどさまざまな思いをもらった気がした。時間的には数時間の活動ではあったが、言葉では表せない時間を過ごすことができた。



■ 杉山実生さん

活動日：7月17日～7月20日、8月16日～8月17日、9月14日～9月15日

活動内容：輪島市での被災家屋の片づけ、倒壊したブロック塀の片づけ、貴重品の搜索等

輪島市河井地区の火災現場で依頼主さんのお話を聞くことができました。

震災当日に大津波警報がだされ火の手が迫る中、家が倒壊してその中に親戚が残されている。しかし助け出すことができない。断腸の思いで高台に避難するしかなかった。辛い気持ちがひしひしと伝ってきました。また今後、この同じ場所で家を再建する強い思いを語る姿に私も涙がこぼれそうでした。

元日の地震発生時、私も輪島に帰省中で被災しました。地震を体験した一人として輪島の人たちに寄り添う事ができると思い、今後も妻や義理の両親の故郷の再建に微力ながらお手伝いをしたいと考えております。



■ N.Tさん

活動日：9月7日 活動内容：輪島市での被災家屋の家具の運び出し

ご高齢世帯であり、かつ、現在金沢市内で生活されているため、なかなか輪島に来ることができず、片付けが進まないとのことでした。2階からの家具の運び出しを手伝わせてもらいましたがご本人たちだけでは体力的にも時間的にも難しかったのでとても助かったと喜ばれました。

現地は想像以上にひどい状況であり、ボランティアの必要性、継続性をひしひしと感じました。また、この後に同じ地域で豪雨による被害があったため、ボランティアの内容も地震による被害のボランティア、豪雨による被害のボランティアとなり、より大変な状況になっています。

今後でもできる範囲でボランティア活動を行っていきたいです。



■ YNさん

活動日：7月27日～7月28日 活動内容：七尾市での家屋内の片づけ、ゴミ出し

地震災害の被害に遭われた方や家屋などの様子は、現地に行かなくては真に感じる事ができない。災害ボランティアに参加したのは人生で初めてだったが、参加したことで災害が非常に身近に感じるようになった。

私は大学で災害の研究をしているのだが、研究をする上でも、災害を受けた地域がどんな様子かを知ったことで、考えることの観点や興味の対象が大きく異なるきっかけになった。この助成金を利用した後に、更にボランティアを続けたいと感じ、その後も私費で何度か訪問し災害ボランティアをした。今では自分にとって能登半島は特別な地域である。本当に参加して良かったと感じています。

このほかの個人の方々の活動報告はこちらから





みえ災害ボランティア団体バンク

みえ災害ボランティア団体バンクの設置

令和6年能登半島地震での被災者を支援する災害ボランティア活動を迅速かつ円滑に行えるよう「みえ災害ボランティア団体バンク」を設置し、登録団体を募集しました。登録いただいた団体には、MVSCが実施するイベントの情報発信や、ボラマッチ事業における協力の呼びかけ等を行いました。

《募集対象》

県内に拠点を持ち、令和6年能登半島地震における被災地での災害ボランティア活動を希望する団体や、石川県内及び三重県等で広域避難されている方への支援活動に取り組もうとしている団体等

《登録団体》 計31団体（令和7年1月末時点）

ご支援ご協力いただいた皆様

令和6年能登半島地震災害ボランティア活動支援金実績

みえ災害ボランティア支援センターでは、令和6年1月12日（金）から令和7年3月31日（月）まで、令和6年能登半島地震被災者支援のためのボランティア活動支援金を募集しました。

ご寄附いただいた支援金は、NPO・団体や個人の方々が被災者支援のためのボランティア活動を行う際の活動費や交通費の助成、みえ災害ボランティア支援センター運営費等に活用させていただきました。

| | | |
|------------------|---|------------|
| 支援金合計（令和7年1月末時点） | 計 | 2,900,417円 |
| 団体からの支援金 | 計 | 2,192,417円 |
| 個人からの支援金 | 計 | 708,000円 |

活動支援金贈呈式 令和6年4月2日（火）

一般社団法人三重県労働者福祉協議会及び日本労働組合総連合会三重県連合会による「チャリティコンペ基金」から活動支援金を贈呈いただきました。

（贈呈者）一般社団法人三重県労働者福祉協議会理事長

及び日本労働組合総連合会三重県連合会会長 番条喜芳様（写真左）

（受領者）みえ災害ボランティア支援センター センター長 山本康史（写真右）



支援物資のご協力をいただいた方々

- 井村屋株式会社様 えいようかん、スポーツようかん等
- 生活協同組合コープみえ様 ささみフレーク、さば味噌煮、フルーツみつ豆
- 生活協同組合コープみえ（有志）様 バランス栄養食、野菜ジュース、黒酢ドリンク
- 大泉新田自治会様 調理器具（鍋、包丁等）一式
- 瑞宝産業株式会社様 しぐれ、昆布の佃煮（50人分）
- 個人の方 お菓子（ダンボール6箱）・子ども遊び道具
- 個人の方 炊き出し材料（米30kg、白菜、大根）
- 個人の方 炊き出し材料（大根、里芋50人分）



井村屋株式会社様



生活協同組合コープみえ様

多くの方々のお力添えで活動を実施することができました。
ご支援・ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。



収支報告

令和6年能登半島地震・奥能登豪雨被災地支援 収支報告

令和7年1月31日現在

令和5年度（令和6年1月10日～令和6年3月31日）

1 一般事業費

【収入の部】

| 予算科目 | 金額 | 備考 |
|-------|-----------|--------|
| 県負担金 | 1,000,000 | 三重県負担金 |
| 小計(A) | 1,000,000 | |

【支出の部】

| 予算科目 | 金額 | 備考 |
|----------|---------|----------------------------|
| 旅費交通費 | 259,369 | 現地調査旅費等 |
| 消耗品費 | 4,656 | 情報収集業務（1月21日～26日）に係る消耗品購入 |
| 手数料 | 2,750 | 振込手数料 |
| 使用料及び賃借料 | 85,965 | 情報収集業務（1月21日～26日）に係るレンタカー代 |
| 委託料 | 189,964 | 輪島市炊き出し支援（2月4日～7日）に係る経費 |
| 合計(B) | 542,704 | |

【収支差額】

| | | |
|-----------|---------|------------------------|
| 差引収支(A-B) | 457,296 | ※収支差額については、三重県へ返納しました。 |
|-----------|---------|------------------------|

2 活動支援費

【収入の部】

| 予算科目 | 金額 | 備考 |
|-------|-----------|-------------------------------|
| 寄附金 | 2,249,248 | 活動支援金（令和6年1月12日から令和6年3月31日まで） |
| その他 | 14 | 預金利息 |
| 小計(C) | 2,249,262 | |

【支出の部】

| 予算科目 | 金額 | 備考 |
|-------|---------|-----------------|
| 助成金 | 574,781 | 団体活動助成金 第1次分6団体 |
| 小計(D) | 574,781 | |

【収支差額】

| | | |
|-----------|-----------|---------------------------|
| 差引収支(C-D) | 1,674,481 | ※収支差額については、令和6年度に繰り越しました。 |
|-----------|-----------|---------------------------|

令和6年度（令和6年4月1日～）

1 一般事業費

【収入の部】

| 予算科目 | 金額 | 備考 |
|--------------|-----------|--------|
| 県負担金 | 2,000,000 | 三重県負担金 |
| 助成金（中央共同募金会） | 170,000 | 9/6入金 |
| その他 | 77 | 預金利息 |
| 小計(A) | 2,170,077 | |

【支出の部】

①事務局運営費

| 予算科目 | 金額 | 備考 |
|-------|--------|--------------|
| 旅費交通費 | 40,770 | 幹事会等に係る旅費交通費 |
| 小計(B) | 40,770 | |

②活動費

| 予算科目 | 金額 | 備考 |
|---------------------|---------|-----------------|
| 支援団体情報共有会議費 | 20,440 | 4/22,7/5 情報共有会議 |
| 現地活動NPO等との支援活動費 | 324,087 | ボラマッチ |
| 現地活動団体とのネットワーク強化事業費 | 51,915 | 現地調査旅費 |
| 小計(C) | 396,442 | |

【収支差額】

| | | |
|---------------|-----------|-----------------------|
| 差引収支(A)-(B+C) | 1,732,865 | ※収支差額については、三重県へ返納します。 |
|---------------|-----------|-----------------------|

2 活動支援費

【収入の部】

| 予算科目 | 金額 | 備考 |
|----------|-----------|------------------------------|
| 令和5年度繰越金 | 1,674,481 | |
| 寄附金 | 651,169 | 活動支援金（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで） |
| その他 | 326 | 預金利息 |
| 小計(D) | 2,325,976 | |

【支出の部】

| 予算科目 | 金額 | 備考 |
|-------|-----------|------------------------------------|
| 助成金 | 2,162,702 | 団体活動助成金（第2次～第4次分）15団体、個人活動助成金 97回分 |
| 小計(E) | 2,162,702 | |

【収支差額】

| | | |
|-----------|---------|--|
| 差引収支(D-E) | 163,274 | |
|-----------|---------|--|

※この収支差額については、1月末時点のものになります。2月以降に活動報告書の作成に充当予定です。最終的な差額は、前事業（令和元年東日本台風被災地支援）からの繰越金（3,208,160円）と合わせて、今後の被災地支援活動に備えた予備費とさせていただきます。

最終の収支報告はみえ災害ボランティア支援センターホームページに掲載します。

今後に向けて

幹事団体からメッセージ

特定非営利活動法人 みえ防災市民会議

MVSC の運営と並行し、介護食を作る食品会社の協力を得て“被災地で温めるだけ”の衛生的かつ栄養バランスのとれた炊き出しや、仮設住宅の住民同士の交流につながる表札作りやハンドクラフト教室、モルックというスポーツ体験の開催や復興イベント運営支援を、また、水害では現地調達が困難だったダンプの支援なども行いました。今後も能登の再興に向けた取り組みに継続的に関わっていきます。

特定非営利活動法人 みえ NPO ネットワークセンター

発災約2か月後に輪島を訪れました。崩落した家屋、寸断された道路、倒木やガレキ、被災された方々の暮らしのありよう、支援ボランティアの姿…。目の当たりにしました。「何ができるのだろう。」心が騒ぎ、体が震えました。輪島情報共有会議に参加し、現地情報を把握。現地 NPO と三重の NPO をつなぎ、ニーズを把握して行ったガレキの撤去、炊き出し、家具等の運び出し、仮設住宅でのサロン活動。三重の NPO と「できること」を摸索した一年でした。「関わり続ける」。この気持ちを仲間と持ち続けます。

三重県ボランティア連絡協議会

自身も被災されながら、追悼イベント・交流イベントと一緒に開催していただいた輪島市ボランティア連絡協議会の皆様、輪島市を拠点に活動する社会福祉法人弘和会の皆様から、ボランティア精神の真髄を学ぶ事ができました。また1月26日には弘和会の理事長を津市にお迎えし講演会を開催しました。今後も継続的な交流を通じ絆をさらに広げていきたいと考えています。

社会福祉法人 三重県社会福祉協議会

三重県社協では、東海北陸ブロック県市社協災害応援協定に基づく応援職員の派遣を行い、災害ボランティアセンターの設置・運営支援や、地域訪問による被災者の生活状況の調査などに取り組みました。また、三重県災害派遣福祉チーム（三重県 DWAT）の派遣についても、事務局としての各種調整・派遣を実施しました。

今後も被災地の社協等と連携し、能登の再興に向けた取り組みに引き続き関与していきます。

日本赤十字社三重県支部

日本赤十字社は災害に備え、訓練の実施、救援物資の整備、防災・減災意識の普及・啓発に努めています。災害時にはいち早く救護班などを派遣し、救護活動を行います。

令和6年能登半島地震では医療救護班を全国から被災地へ派遣するとともに、延べ約1700人の赤十字ボランティアが被災地で炊き出しや救援物資の運搬支援などを行いました。

今後も災害に備え、平時から各幹事団体との連携に努めてまいります。

公益社団法人 日本青年会議所 東海地区三重ブロック協議会

2024年1月3日に、公益社団法人日本青年会議所より支援物資の依頼があり三重県内の各地青年会議所様より、物資の提供をいただき被災地にお送りしました。その後、1月下旬から2月下旬にかけ、こちらも公益社団法人日本青年会議所からの人的支援の要請を受け被災地である七尾市にてボランティア活動を行いました。

三重県 防災対策部災害対策推進課 子ども・福祉部地域福祉課 環境生活部ダイバーシティ社会推進課

能登半島地震及び奥能登豪雨では、MVSCの事務局として活動支援金の募集のほか、団体及び個人ボランティアに対する活動費助成事業などを行いました。支援金にご協力を頂いた皆様や現地で支援活動をされた皆様に、改めて深く敬意と感謝を申し上げます。

被災者に寄り添う気持ちを忘れずに持ち続けるとともに、今回の能登支援を通して得られた皆様とのつながりを大切に、幹事団体と連携しながら、災害ボランティア活動の支援に取り組んでいきます。



活動報告書

編集・発行：みえ災害ボランティア支援センター

発行日：2025年2月28日

この刊行物に対するお問い合わせは、下記までお願いします。

〒514-0009

三重県津市羽所町700 アスト津3階

三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課 NPO 班

TEL：059-222-5981

FAX：059-222-5984

E-MAIL：seiknpo@pref.mie.lg.jp

URL：http://mvsc.jp/